

令和3年度の学校評価（中間評価）

R3.9.30 現在

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>『クリティカルシンキングの育成』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・望ましい学習習慣、生活習慣の確立 ・帰属意識と自己有用感の涵養 ・キャリア教育の一層の充実 ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備 			
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項（達成基準を含む）	中間評価
<p>P T A活動 （総務部）</p>	<p>P T Aとの連携強化</p>	<p>学校における諸活動に対し、P T Aとの連携を密にし、積極的な活動を推進する。</p>	<p>P T Aとの連携強化のため情報発信を積極的に行う。</p> <p>A：学校における諸活動を発信した 100% B：学校における諸活動を発信した 75%以上 C：学校における諸活動を発信した 50%以上 D：学校における諸活動を発信した 50%未満</p>	<p>P T A総会は感染症対策をしながら予定通り実施できたが、緊急事態宣言の影響があり、多くのP T A行事が中止あるいは、内容を精選し、縮小して実施した。ホームページ、きずなネットより、本校の教育活動の現状や連絡事項を情報発信できた。</p>
<p>学習指導 （教務部）</p>	<p>1人1台タブレットとプロジェクトを活用した授業改善の促進</p>	<p>ICT活用ノウハウの浸透、教材の蓄積を実践する。公開授業週間や研究授業にてICTを活用した授業実践を推進する。</p>	<p>教科指導におけるICTを活用した「わかる授業」の日常的な実践を推進する。</p> <p>A：授業でICTを活用した教員が100% B：授業でICTを活用した教員が75%以上 C：授業でICTを活用した教員が50%以上 D：授業でICTを活用した教員が50%未満</p>	<p>公開授業週間及び研究授業にて、ICTを活用した授業を多数実践できた。商業科では教科会にて、ICT使用例を紹介し実践している先生も多いが全体にはまだ浸透していない。また、教材となる動画やプリントの共有についても促進している。</p>
<p>生徒指導 （生徒指導部）</p>	<p>交通事故の防止</p>	<p>外部講師による交通安全指導講話を実施する。 生徒生活委員を活用して継続的な啓発活動に取り組む。</p>	<p>生徒の交通安全への自己意識を高めさせるために交通講話や立ち番指導の徹底を図る。</p> <p>A：交通事故件数が18件以内（前年度比20%減） B：交通事故件数が19件以内（前年度比15%減） C：交通事故件数が20件以内（前年度比10%減） D：交通事故件数が23件以上（前年度より増）</p>	<p>交通事故件数は昨年9月末9件に対し、今年9月末11件である。10月より自転車保険の加入義務、ヘルメット着用の努力義務などが実施され、今後の交通安全指導のあり方について検討を進めていきたい。</p>
<p>生徒会活動 （生徒会部）</p>	<p>目標を理解し協働的に取り組むことのできる生徒会行事の実施</p>	<p>安全で安心な生徒会活動の在り方について、生徒が考える時間を積極的に設ける。</p>	<p>各分掌との連携と直近の状況を分析し、柔軟に実施方法を検討する。</p> <p>A：全ての行事で実施できた B：4つの行事で実施できた C：2つの行事で実施できた D：実施できなかった</p>	<p>生徒会行事を予定通り行うことが難しい状況が続いた。現時点で球技大会は延期であり、実施の目途がなかなか立たない。今後の行事についても、そのときの状況によって柔軟な判断と対応を重ねていく。</p>

教育相談 (教育相談部)	問題を抱える生徒の早期発見と個々の生徒に対する適切な対応	教職員の連携と協力体制を構築する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的活用と外部機関との連携	相談アンケートは、質問事項の精選を行い、ICTを活用して正確な生徒の状況把握に努める。 A：相談アンケート等でICTを活用した教員が100% B：相談アンケート等でICTを活用した教員が75%以上 C：相談アンケート等でICTを活用した教員が50%以上 D：相談アンケート等でICTを活用した教員が50%未満	コロナ禍で実施した「心の健康調査」アンケートでは、タブレットを活用した。質問項目を見直し、生徒の状況把握を意識した内容とした。配慮生徒は担任、学年へ連絡し、緊急を要する場合は外部機関と連携をとり対応する予定である。
保健・清掃指導 (保健厚生部)	感染症対策に対する生徒の実践的行動の育成	健康観察の徹底とICT化 生徒による校内の感染症予防のための整備、広報活動	感染症に関する情報を常に校内で共有する。 A：生徒の実践的な行動が100%達成できた B：生徒の実践的な行動が75%達成できた C：生徒の実践的な行動が50%達成できた D：生徒の実践的な行動が25%達成できた	1年生の1クラスで7月からTeamsを使った健康観察に取り組みだした。保健委員が感染予防ポスターを作成し、掲示した。
進路指導 (進路指導部)	キャリア教育の一層の充実による望ましい職業観と勤労観の育成	学年に応じたガイダンスを実施する。進路先の広報担当者や活躍する卒業生と話しをする機会を増やす。	生徒の進路実現や積極的な学校生活につながる外部講師の活用を図る。 A ガイダンス全てに講師を活用できた B ガイダンスの3/4に講師を活用できた C ガイダンスの2/4に講師を活用できた D ガイダンスの1/4に講師を活用できた	3年生は進路実現に向けた外部講師の活用をすることができた。2年生は講師を活用する機会がなかったが、1年生は地元企業紹介を通して望ましい職業観を身につけることができた。
図書館活動 (図書館部)	生徒の主体的な読書活動と図書館利用の促進	授業における図書館利用を促進する。 図書選定にあたり、多くの生徒からの希望を集約する。	生徒への貸出冊数を増やす。 A：生徒への貸出冊数が前年度比110%以上 B：生徒への貸出冊数が前年度比100%以上 C：生徒への貸出冊数が前年度比70%以上 D：生徒への貸出冊数が前年度比50%未満	図書委員を通じて生徒の読みたい本の希望を取ったところ、80冊程度のリクエストがあり、ほぼ希望通り購入した。利用者も増え、9月初め時点での生徒への貸出冊数は1,791冊と順調に伸びている。
情報管理・情報発信 (教育情報部)	1人1台タブレットの速やかな導入と安定した運用	初期設定を早期に完了し、運用を開始する。また導入後は生徒職員の利活用をサポートする。	全校生徒のタブレットを早期運用する。 A：1学期中に運用開始できた B：2学期中に運用開始できた C：3学期中に運用開始できた D：今年度中に運用開始できなかった	1人1台タブレットは1学期中に運用を開始することができた。今後は、運用面での問題の解決や、利活用のサポートに取り組んでいく。

商業教育 (商業科)	新しい学習評価に 対応できる評価方 法の実践	新学習指導要領に基づ き1年次科目の年間学 習指導計画及び評価規 準を作成し試行を検討 する。	評価規準を作成し試行検討する。 A：評価規準を試行検討することができた B：評価規準を試行することができた C：評価規準の作成に留まった D：評価規準の作成ができなかった	次年度の年間学習指導計画及び評価規準の 素案を作成した。2学期以降試行し、ふり かえりをしていく。
総合ビジネス 科	教科商業の学びを 生徒が地域社会に 生かすことができ る取組の推進	授業にて地域社会との 協働事業を設定でき るように学科主任と授業 担当者が連携する。	地域社会との連携授業を企画創造する。 A：連携授業に参加した生徒が100% B：連携授業に参加した生徒が75%以上 C：連携授業に参加した生徒が50%以上 D：連携授業に参加した生徒が50%未満	1学期は3年生を中心に連携授業を企画創 造できた。2学期以降2年生も含めて地域 社会と連携する授業を企画していく。
情報処理科	I T分野において 地域産業の活性化 を牽引できる素養 の深化	地域の学校や企業と連 携しI T技術に関する 実践を行う。	I T実践に取り組む。 A：I T実践に取り組んだ生徒が100% B：I T実践に取り組んだ生徒が75%以上 C：I T実践に取り組んだ生徒が50%以上 D：I T実践に取り組んだ生徒が50%未満	3年生において地域のI T系企業や大学と の連携による高度なデータ分析や、システ ムの開発を通じた実践的な授業を行ってい る。今後は2年生にも実践をさせていく。
国際ビジネス 科	ビジネスのグロー バル化で必要とさ れる外国語及び経 済の学力の定着	キャリアを意識し自信 をもたせるための高度 な資格取得の挑戦をさ せる。	高度な資格取得に積極的に取り組む。 A：取り組んだ生徒が70%以上 B：取り組んだ生徒が50%以上 C：取り組んだ生徒が30%以上 D：取り組んだ生徒が30%未満	グローバルビジネスで必要とされる外国語 及び経済の学力を定着させるため、資格取 得に挑戦しているが、確かな学力の定着に は至っていない。
経理科	会計の情報化に対 応するためにタブ レットを活用した 授業改善の実践	授業改善の実施を促進 するために学科主任と 科目担当者が連携す る。	タブレットを活用した授業改善を実施する。 A：授業改善に取り組んだ科目が80%以上 B：授業改善に取り組んだ科目が50%以上 C：授業改善に取り組んだ科目が30%以上 D：授業改善に取り組んだ科目が30%未満	タブレットを使用した授業展開について検 討をしている。今後は実際に授業で使用 し、授業改善に向けた取り組みを進めてい く。
第1学年 (1年学年会)	帰属意識の高い人 材の育成	学校生活を通して、集 団行動を常に意識させ る。 L Tや学校行事では主 体的な取組を行い、尊 重し合える雰囲気を作 る。	学校行事を通して、帰属意識を高める。 A：帰属意識が高まった生徒が80%以上 B：帰属意識が高まった生徒が60%以上 C：帰属意識が高まった生徒が40%以上 D：帰属意識が高まった生徒が40%未満	L Tにおいて学校行事である遠足の行動班 づくりやバスの座席決め、クラス役員の係 決めなどで、一部の生徒ではあるが尊重し あえる雰囲気を作り出すことができた。ま た、交通量調査の事前準備を通して、集団 行動の大切さを意識させることができた。

第2学年 (2年学年会)	自覚と責任を持ち主体的に行動できる生徒の育成	学校行事・HRでの各々の仕事を明確化し、自主的に取り組みやすい環境を整える。	各生徒がそれぞれの役割を自覚し主体的に行動できる A：学校生活において主体的に行動できた生徒が80%以上 B：学校生活において主体的に行動できた生徒が60%以上 C：学校生活において主体的に行動できた生徒が40%以上 D：学校生活において主体的に行動できた生徒が40%未満	前期はクラス役員の仕事を与え、各自責任を持って行動することができた。今後、修学旅行や体育大会、文化祭があり、各自に自覚と責任を持たせ主体的に行動できる生徒を育てる工夫をしていきたい。
第3学年 (3年学年会)	進路決定・進路実現へ向け主体的に行動できる生徒の育成	生徒が自ら進路を選択することに重点を置きながら、学年・進路指導部・保護者間での情報共有を確実に行う。	選択肢を示しながらも、最終的な決定・選択は生徒に委ねる。 A：主体的に進路を選択できた生徒が90%以上 B：主体的に進路を選択できた生徒が75%以上 C：主体的に進路を選択できた生徒が60%以上 D：主体的に進路を選択できた生徒が60%未満	担任を中心として進路指導部や保護者との連携は密に行えた。多くの生徒が主体的に進路について考え、順調に進路決定者が増えてきている。進学者がこれからの決定となっていくので、年度末に向けて生徒の進路実現の手助けを継続したい。
いじめ防止対策の推進	学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止に係る取組の充実を図る。	アンケート調査等を利用していじめの早期発見をする。いじめの発見・通報を受けたら「いじめ防止・対策委員会」にて組織的に対応する。	いじめの早期発見に全職員で取り組む。 A いじめの件数0件 B いじめの件数3件以内 C いじめの件数5件以内 D いじめの件数6件以上	生徒指導部のアンケートや担任面接を通して、効果的にいじめの早期発見に努めている。SNSによる誹謗中傷等、軽微な問題を数件発見し、迅速に対応できた。
勤務時間の適正な管理	長時間労働による健康障害を防止する。	1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。	教職員の健康状態が良好であった。 A 教職員の健康障害が0件 B 教職員の健康障害が1件 C 教職員の健康障害が2件 D 教職員の健康障害が3件以上	各分掌の繁忙期に支援を行う分掌援助システムを構築した。 施錠時間を早め、職員へ計画的な仕事の従事を促している。 各分掌の繁忙期と事前の支援依頼ができるホワイトボードを設置した。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導における授業改善の工夫について ・基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚について ・学習環境、学校施設等における整備状況について 		